

宿泊料金最適化へAI

仙台市松月産業 スタートアップと提携

仙台市内でビジネスホテルを展開する松月産業（仙台市）は、東大発スタートアップのワンダーラスト（東京）と提携し、人工知能（AI）を活用したホテルの業績アップに乗り出す。価格設定の最適化と運営の効率化を図り、収益性と顧客満足度を高める。

企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）を手がけるワンダーラストと8月24日にパートナーシップ契約を結んだ。市内に13棟あるホテルを対象に過去の利用状況や曜日、天候、周辺エリアでのイベントの有無などをAIが総合的に

分析し、最適な宿泊料金を算出する。

従来は支配人や関係部署の担当者が経験を頼りに需要を予測し、料金を検討していたという。AI導入でデータに基づく価格設定が可能になり、効率性・収益性の向上に加えて、業務負担の軽減も期待できる。

テストと開発を重ねた上で、来年1月の本格導入を目指す。松月産業の田所寛章常務は「接客業務などに人手を回すことができ、より高品質なサービスを提供できる。利用者の満足度を高めることにつなげたい」とコメントした。